

マレーシア

経済的發展を達成し東南アジアの優等生と呼ばれ、それぞれの民族がそれぞれの社会をもち、異なった宗教・習慣・文化圏を有する複合民族国家、それがマレーシアです。

■ マレーシアの食

マレーシアは3大民族から構成され、料理も大きくマレー系、インド系、中華系に分類されます。ココナツとスパイスを効かせたマレー料理、マレーシア風の中華料理、インド料理など、米を主食としていますが、麵料理も多くあります。

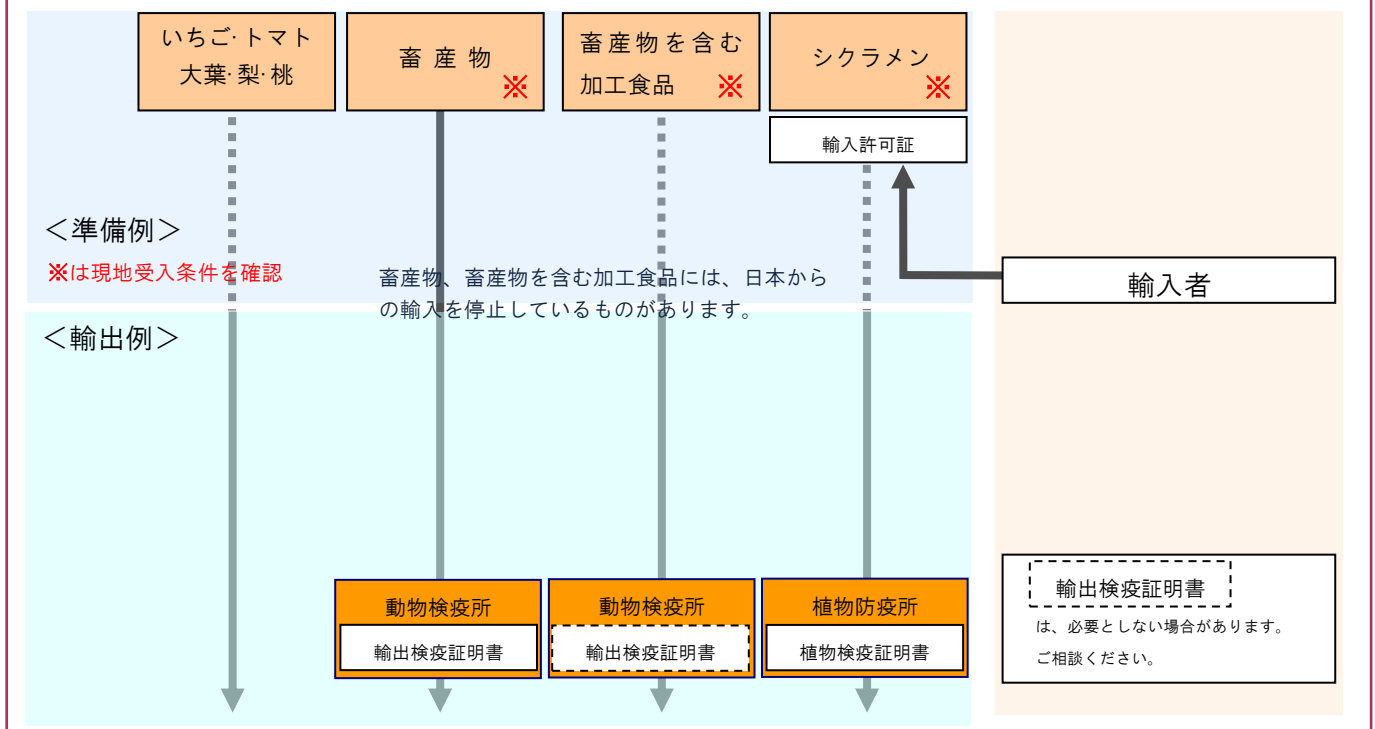
まろやかな辛さと甘みが特徴で、日本人にも馴染みやすい味です。

ここ数年は日本料理の人気が高まり、回転寿司や本格的な寿司屋が次々とオープンしています。寿司ネタは日本から空輸されています。

スーパーでは、アジ、サバ等の青魚から、鯛のような白身魚まで多様な魚貝類が手に入ります。日系の百貨店では、日本の食材や調味料も手にすることができます。



マレーシアへ輸出を実現させるためには、こうした準備が必要です！



現地レポート

クアラルンプールの今

クアラルンプールには、世界中から店舗が集まってきている。世界の食材はここで手に入れることができる。もちろん多くの日本食材も手に入れることができる。伊勢丹やイオン等大型店舗も出店している。TOKYO STREET 等、日本のレストランやショップを集めたコンセプトモールもある。

ここは新興都市とはすでにいえない。発展都市である。シンガポールに大きく影響を受け、華僑の資本参加が進んでいる。物価も高くなり、経済は安定成長化に向かっている。ここでの競争は大変厳しい。

富裕層が多く、高い商品が売れるマーケットであるが、それゆえにブランドを確立しないと売れない。今後は高価でブランド価値が高いものと、安価で価値の高いものに大きく二分していく。安価で価値の高いものは中国企業がライバルとなる。

マレーシアでのハラール制度は政府でコントロールされている。そのためハラールの取得は難易度が高い。



クアラルンプール中心部。都市化が進んでいる。



日本の個性的な店を集めた東京ストリートは人気が高い。



先進的なショッピングセンター。

| | |
|----------------------|---|
| 人口 (2013年) | 約2,980万人 (クアラルンプール164.4万人) |
| 言語 (2013年) | マレー語(国語) タミル語 中国語 英語 |
| 宗教 (2013年) | イスラム教 60.4% 仏教 19.2%、キリスト教 9.1%、 ヒンドゥー教 儒教 道教 など |
| 通貨 | リンギット |
| 国民総所得 GNI (2013年) | 国民総所得 2,530億ドル(米ドル) 一人当たり国民総所得8,770ドル(米ドル) うち食費に占める割合14.0%(2009年) |
| 在留邦人数(2013年) | 約1万人 |
| 日系現地法人数 (2013年4月) | 1,409社 |
| 車普及率 (2011年) | 乗用車 62.7% 二輪車 52.6% |
| 耐久消費財普及率 (2011年) | 冷蔵庫 86.3% 電子レンジ 39.6% |